

個別課題:緩和ケア関連パスの使用状況
(平成30年7月1日～12月末日)

施設名:	Plan (計画)	Do (実行)	Check (評価)	Act (改善)
9 大阪労災病院	緩和ケアの質の均てん化を図る。 昨年度年間15症例であったため、約7%増加の10例/6か月	①緩和ケア関連パスの見直しを実施。②同時に緩和ケアマニュアルも見直しを実施。③緩和ケアパス対象患者を明確にし主治医へ呼び掛けを実施。	4例	緩和ケア関連パスの使用頻度の低さについて調査を行っていく。原因を明確にし、必要時内容検討していく。対象患者への使用の啓蒙を継続していく。新規パス作成について検討していく。
10 堺市立総合医療センター	大阪府がん緩和地域連携パスの使用件数 20件	外来患者が在宅支援を受ける際の情報共有ツールとして使用する。	大阪府がん緩和地域連携パスの使用件数 15件 全体アナウンスと研修医の学習会でパスについて紹介。目標数値には到達せず。	全体のアナウンスに加え、個別のアナウンスを継続して行っていく。
31 八尾徳洲会総合病院	①緩和パス使用件数 5件/6ヶ月	①MSWや退院調整チームへ緩和パスの使用方法的説明を行う ②がん疾患で他院での訪問診療や訪問看護の介入が必要な患者をピックアップする	3件/年	①退院支援加算の導入や担当者交代もあり、MSWの介入が困難。緩和ケアチームが介入した患者へ積極的に実施した。
32 若草第一病院	大腸がん術後連携パスの新規症例数 5件 前年実績(平成29年7月1日～12月末 1件)	・新規がんパス受け入れ可能な開業医を増やしていく。 ・新規パス導入症例を増やすためOPE後、在宅医と連携していくために主治医にアピールする。	新規がんパス10件、 新規受け入れ在宅医5件	5年間経過を見ていく中で問題の抽出していく。